【NPO法人生駒の地域医療を育てる会設立までの略歴】

会の発足は旧生駒総合病院の閉院と関わっています。

生駒総合病院は1944年（昭和19年）に日本医療団の施設として開院、1950年（昭和25年）から奈良県国保連合会（国保連）が運営していた生駒市内（1950年当時は生駒町）唯一の公的医療機関でした。2004年（平成16年）の秋、国保連から職員に対し、突如、民間に移譲すると発表がありました。しかし、実際には移譲先は決まっておらず、住民への周知や入院・通院患者の引継ぎ先の確保も行わないまま、2005年3月に閉院しました。

このような閉院に対し、病院職員・住民による医療の継続及び新病院建設を要望する署名活動、地元医師会からの生駒市に対する新病院建設要望書提出があり、その後、「市民の病院をつくろう！」という市民運動へと発展しました。このような市民の声を背景に、2006年、生駒市は同病院の後継病院の開設に着手しました。

2008年7月、「市民の病院をつくろう！」と活動していたメンバーが中心となって「新病院に留まらず、生駒の地域医療のあり方に積極的に提言し、今ある医療機関や新病院を盛り立てていけるような市民参加の形を探りたい」と「生駒の地域医療を育てる会」を設立しました（設立趣意書はこちら

http://ikomanoiryou.sakura.ne.jp/pdf/prospectus.pdf）。

その後の紆余曲折を経て、ようやく2012年9月の市議会での病院建設予算可決により新病院（生駒市立病院）の開院が現実のものとなったことから、生駒市に留まらず、地域医療を育てる活動を深め広げようと、2013年7月、NPO法人化しました。（設立趣旨はこちら

http://ikomanoiryou.sakura.ne.jp/pdf/NPOshushi.pdf）。

当会は市民の皆さんとともに講演会、学習会、バスツアー、おしゃべりサロン、ワールドカフェ、懇談会などを精力的に開催し、地域医療の充実を目指して頑張っています。

なお、当会については、2021 年、生駒市のホームページ内（市制 50 周年のページ）で、医療分野で生駒市を支えてきた団体として紹介されました。